

地域の皆さまと病院をつなぐ

ごろまるだより

総合犬山中央病院広報誌 GOROMARU dayori

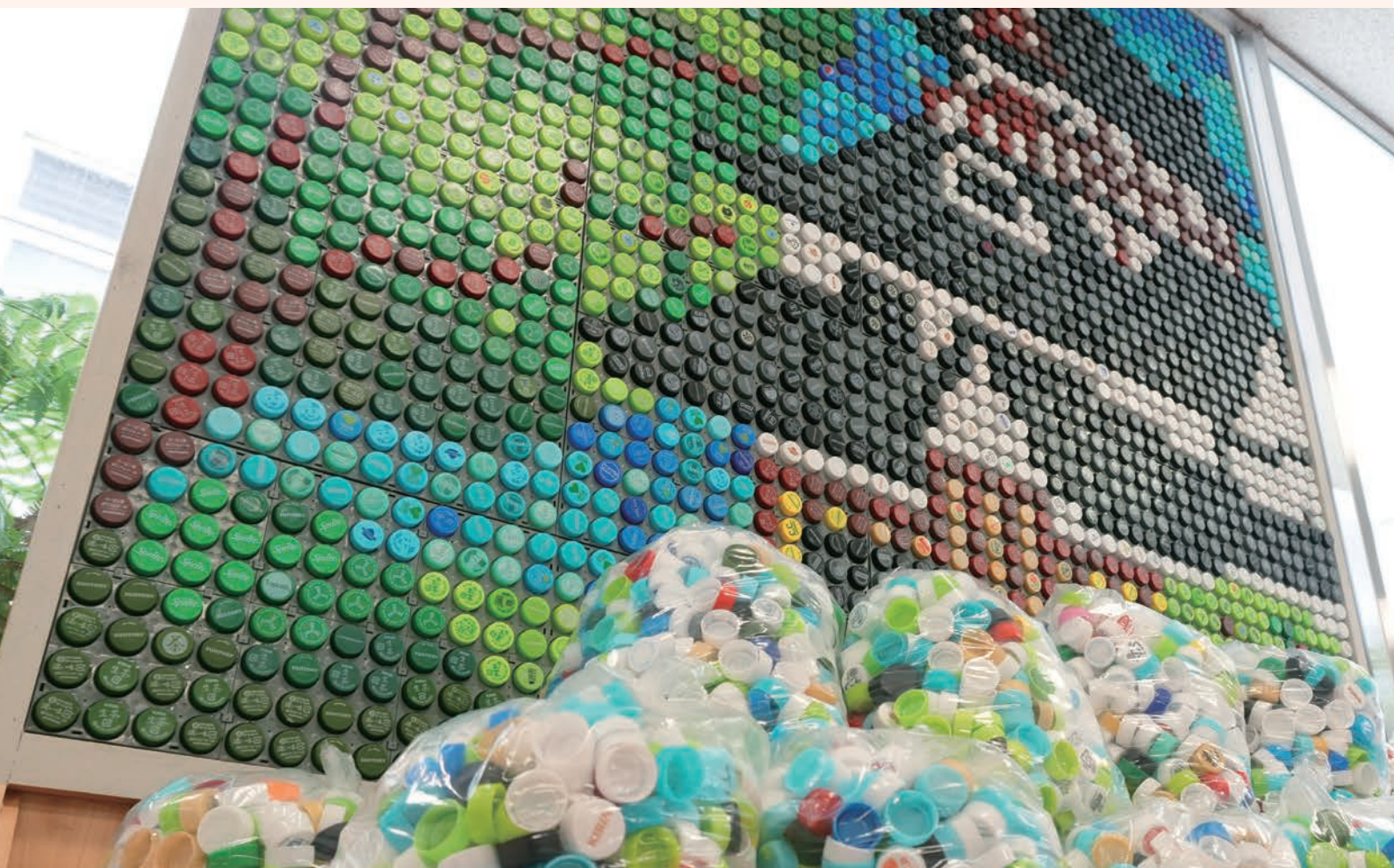
ごろまる医療のチカラ

各診療科や他院と連携し、専門的な治療を提供
総合病院の強みを生かした眼科

眼科医師: 焼田 豊

- ・ 犬山中央居宅介護支援事業所のご紹介
- ・ 採血でできる膵臓がん検査・令和8年度定期予防接種について
- ・ 免疫力の高い身体をつくる ～免疫を高める生活習慣～
- ・ 令和8年熊本地震JMAT派遣活動報告

Photo : Happy Medi-cap活動 -ペットボトルキャップアート-



Vol.
141
2026
autumn

ごろまるだより 2026 autumn

Vol.
141

季刊 4 回発行 2026 年 10 月 1 日発行 通巻 141 号 編集・発行人 社会医療法人 志聖会 総合犬山中央病院 〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚6 TEL 0568-62-8111

令和8年熊本地震JMAT派遣活動報告

病院からのお知らせ

令和8年熊本地震で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。2026年8月17日から20日にかけて、私たちは医師会の要請を受け熊本県災害派遣チームJMATとして、医師1名、看護師2名、医療事務1名の計4名で被災地へ赴きました。活動拠点は熊本県宇城市を中心に、防災センターや小学校などの避難所を巡回したり、開業医の診療サポートとして訪問診療を行いました。

被災地での活動は当院にとって初めての派遣経験であり、準備期間中は不安と緊張に包まれていました。当日、熊本県に到着し熊本市内は落ち着きを取り戻している様子でしたが、被災地に入ると崩れた屋根にブルーシートが掛けられ、傾いた建物や根元から崩れた石碑が目に見え、心に大きな衝撃を受けました。その光景に言葉を失い、災害の深刻さを肌で感じました。

地震発生からおおよそ3週間目、ライフラインとして水以外は普及が進んでいますが、支援の管理が充分ではない地域もありました。避難所を訪問した際、多くの被災者の方々が「今後どうすればいいかわからない」と不安を口にされていました。一日でも早い復興が進むことを願うと同時に、医療従事者として何ができるのかを考えさせられる経験となりました。この派遣活動を通じ、災害への備えや迅速な対応の重要性を痛感しました。これからも地域の健康と安心を守るため、日々努力していきます。



病院建て替えのための寄付のお願い

病院からのお知らせ

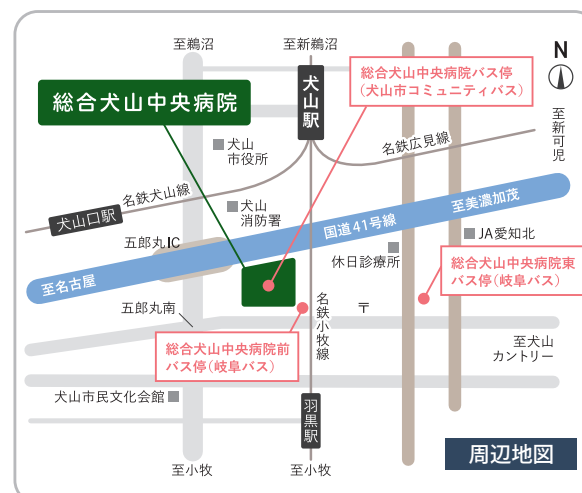
総合犬山中央病院は、1983年の開院以来「地域の人々が安心して暮らせる心の支え」を理念に地域医療を支えてきました。しかし施設の老朽化やスペース不足を受け、新病院建設プロジェクトを進めています。現在、鉄骨工事が完了し、内外装仕上げ工事が進行中です。最新設備の導入により安全で効率的な医療提供が可能となります。中東情勢による資材調達の困難もありますが、施工会社の尽力で順調に進んでいます。完成は2027年1月予定。地域医療を守り、安心できる環境を目指すこのプロジェクトには多額の資金が必要です。皆様の温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



【病院建て替えのための寄付のお問い合わせ先】
社会医療法人志聖会 総合犬山中央病院
建設推進委員会 事務局 安藤宛
〒484-8511 愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚6
[TEL] 0568-62-8111 [FAX] 0568-62-9289
[Email] info@inuyamachuohospital.or.jp



詳細はこちら



社会医療法人 志聖会
総合犬山中央病院

〒484-8511
愛知県犬山市大字五郎丸字二タ子塚6
TEL.0568-62-8111 (代)
HP <https://www.inuyamachuohospital.or.jp/>

外来受付時間 8:00~11:00
休診日: 日曜・祝日
面会時間 月曜~金曜 15:00~20:00
土曜・日曜・祝日 13:00~20:00
救急は24時間365日受け付けています。

総合犬山中央病院
理念

地域の人々が安心して暮らせる
心の支えとなる病院を目指します。

総合犬山中央病院
@inuyamachuogenerahospital

総合犬山中央病院チャンネル
@inuyamachuohospital-pr

社会医療法人 志聖会
総合犬山中央病院

眼科
焼田 豊 医師

各診療科や他院と連携し、
専門的な治療を提供
総合病院の強みを生かした眼科



当院の眼科では、白内障、緑内障、ドライアイなどをはじめとした幅広い眼疾患を診療しており、各診療科と連携した治療や名古屋大学医学部附属病院と連携した手術も行っています。今回は、眼科の焼田豊医師に、治療についてのお話を伺いました。

クリニックのような安心感と
総合病院ならではの
専門性を生かした診療

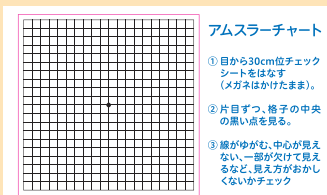
―眼科の特徴や強みを教えてください―

焼田 当科では、ものもらい、ドライアイ、結膜炎などのごく一般的な眼の症状のほか、高齢者に多い白内障、緑内障、加齢黄斑変性などを診ています。重症以外の患者さんや、内科にかかっている患者さんの診療も行っています。クリニックのような安心感があることと、専門性を生かした診療ができることが当科の特徴です。定期的に治療機器を更新して新しいもので対応しているほか、薬剤も種類豊富に取り揃えており、患者さん一人ひとりに合わせた選択が可能です。

治療においては、視力低下や失明の原因となる網膜のむくみ（黄斑浮腫）や正常な血管から新しい血管が発生するのを抑える硝子体注射や、硝子体手術、レーザー治療を実施しています。硝子体手術は、目の中に

あるゼリー状の組織「硝子体」そのものの混濁を除いたりその奥にある網膜などの病気を治療するものです。治療は、白目の部分から眼内に非常に細い器具を挿入して行い、硝子体カッターで出血や混濁した硝子体を切除して吸引除去します。

レーザー治療は、切開せずに病変部をレーザー光で焼き固めることで、病気の進行を抑えるものです。目の奥にある網膜の静脈が詰まり、出血やむくみを引き起こして視力が下がる「網膜静脈閉塞」や「糖尿病網膜症」においては、血流が悪くなった部分をレーザーで焼くことにより網膜の負担を軽くすることができます。網膜に穴があいている場合



眼の疾患の早期発見に活用できる「アムスラーチャート」。片目ずつ中央の黒い点を見て、線がゆがむ、中心が見えない、一部が欠けて見えるなど、見え方がおかしいなら、すぐに眼科専門医を受診しましょう。

出典：アイフレイル啓発公式サイト
<https://www.eye-frail.jp/checklist/tenken/>

には、剥がれを防止するためにレーザーで固めます。網膜に穴があいて剥がれる網膜剥離は早急な手術が必要ですので、当科または連携病院にてスピーディーに対応しています。

各診療科との連携と

名古屋大学医学部附属病院に

よるバックアップが強い

―各診療科との連携についてお聞かせください―

焼田 眼科においては、糖尿病や腎疾患などの全身疾患に起因する眼疾患受診も多いため、連携しながら広くカバーしています。糖尿病によって網膜の血管が障害される「糖尿病網膜症」は、糖尿病の三大合併症の一つで、日本における中途失明原因上位の病気です。初期には自覚症状がほとんどなく、進行すると失明に至ることがあります。眼科における治療としては、レーザー治療や注射、硝子体手術などがあるため、糖尿病内科との連携を強化しているところです。

―名古屋大学医学部附属病院との連携についてもお聞かせください―

焼田 当科が協力体制を築いている名古屋大学医学部附属病院の眼科は、加齢黄斑変性や糖尿病網膜症、網膜色素変性をはじめとする疾患に対して、先端的な診断・治療を行っていることで知られています。必要に応じて名古屋大学の経験豊富な医師が当院に来院し、網膜硝子体手術や難度の高い白内障手術などの専門的な治療を担当しています。また、患者さんの病状や治療内容に応じて、名大病院以外の地域の中核病院とも緊密に連携しながら診療を進めています。患者さん一人ひとりの希望や必要性を十分に考慮し、最適な医療機関への紹介や継続的なサポートを行える体制を整えています。

早めの治療がカギとなる

緑内障・白内障

―緑内障・白内障について、症状や治療のポイントを教えてください―

焼田 緑内障・白内障は40代以上の発症率が高いのが特徴です。緑内障は、目から脳へ情報を伝える視神経が障害され、視野が徐々に狭くなっていく病気です。初期には自覚症状がほとんどなく、見え方に異常を感じないまま進行すること也不少ありません。進行すると視野の欠損が広がり、日常生活に支障をきたす場合があります。治療では点眼薬やレーザー治療、手術などにより進行を抑えることを目指します。一度失われた視野は回復が難しいため、早期発見・早期治療が重要です。

白内障は、目の中でカメラのレンズの役割を果たす「水晶体」が濁ること、見え方に影響が現れる病気です。主な原因は加齢で、年齢とともに多くの人にみられます。症状として、視界がかすむ、光がまぶしく感じる、物が二重に見える、視力が低下するなどがあります。進行はゆるやかなことが多く、初期には気づきにくい場合もあります。点眼薬で進行を抑える治療が行われますが、

知っていますか？アイフレイル

「アイフレイル」とは、加齢に伴って眼が衰えてきたうえに、さまざまな外的ストレスが加わることで、目の機能が低下した状態、また、そのリスクが高い状態のこと。健康な目と高度な視機能障害の中間を指し、早めに気づくことができれば目の健康寿命を延ばすにつながります。今回はアイフレイルのセルフチェックのポイントや予防についてご紹介します。



アイフレイルの症状・原因

アイフレイルの主な症状は、目が疲れやすい、夕方になると見えにくい、小さな文字が読みにくい、まぶしく感じる、かすむなどです。この症状には、加齢による衰えのほかに、緑内障や白内障などの病気が隠れている可能性があります。

アイフレイルのセルフチェック

日本眼科啓発会議のアイフレイルチェックシートで、今の見え方を確認してみましょう。目がぼやける、かすむ、まぶしく感じるといった症状は白内障、視野の一部が欠けて見えにくい症状は緑内障のサインかもしれません。定期的にチェックを行い、気になる症状があれば早めの受診を心がけましょう。見え方の変化に早く気付くことが、目の健康を守る第一歩です。



アイフレイル チェックシート

40歳を過ぎたら 加齢による目の機能低下を自己点検しよう

2つ以上当てはまったら、アイフレイルかも。眼科でご相談ください。

1 目が疲れやすくなった	2 夕方になると見えにくくなるが増えた	3 新聞や本を長時間見ることが少なくなった	4 食事の時にテーブルを汚すことがたまにある	5 眼鏡をかけてもよく見えないと感じることが多くなった
6 まぶしく感じやすくなった	7 はっきり見えない時にまばたきをすることが増えた	8 まっすぐの線が波打って見えることがある	9 段差や階段で危ないと感じたことがある	10 信号や道路標識を見落としそうになったことがある

チェックが 0 人の人は あなたの目は今のところ健康です。変化を感じたら、またチェックしてください。

1 人の人は 目の健康に懸念はありますが、一度、眼科医にご相談ください。

2 人以上の人は アイフレイルかもしれません。一度、眼科医にご相談ください。

出典：アイフレイル啓発公式サイト <https://www.eyefrail.jp/>

アイフレイルの予防

普段の生活に以下の4つを取り入れて、アイフレイルを予防しましょう。

目を休ませる

目を閉じるだけでも楽になります。目が疲れてきたら休ませましょう。

目が疲れない環境づくり

PC・スマートフォンの明るさや文字サイズなどを調整し、目の負担を減らしましょう。

まばたきを意識

意識的にまばたきの回数を増やし、目の乾燥を防ぎましょう。

コンタクトやメガネの見直し

コンタクトレンズを休む時間をつくり、目の乾きや疲れを予防しましょう。



40歳になったらアイフレイル対策を始めましょう！

身体の変化が出やすくなる、老眼を実感し始めるタイミングでもあり、緑内障を患う人が増える年齢でもある40歳になったら、アイフレイルの対策を始めましょう。目の病気は徐々に進行することが多いため、見えにくくなるのは高齢になってからでも、病気そのものは40～50代から始まっているのです。少しでも長く健康な目で過ごすためにも、ぜひ意識して対策していきましょう。

濁った水晶体を元に戻すことはできません。日常生活に支障が出た場合は、濁った水晶体を取り除き人工レンズを挿入する手術が有効です。

緑内障も白内障も、加齢とともに発症リスクが高まる代表的な目の病気です。大切なのは、「まだ大丈夫」と自己判断しないこと。定期的に眼科検診を受けることで、早期発見・早期治療につながり、大切な視力を守ることができます。目の健康維持のためにも、日頃から目の変化に気を配りましょう。



を防ぐことを目的としています。

アイフレイルは、加齢に伴う目の機能低下にさまざまな要因が加わり、視機能が衰え始めた状態、またはそのリスクが高い状態を指し、健康な目と重度の視機能障害との中間段階と考えられています。主な原因は加齢による老眼や目の調節力の低下ですが、その陰に眼疾患が隠れている場合もあり、代表的なものとして、緑内障、白内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症などが挙げられます。これらは初期には自覚症状が少なく、気づかないうちに進行することも少なくありません。そのため、

セルフチェックを活用して小さな変化を見逃さないことが重要です。見え方の変化や不便さを感じたら、自己判断せず眼科を受診しましょう。特に40歳を過ぎたら、症状の有無にかかわらず定期的な眼科検診を受けることをおすすめします。目の健康寿命を延ばすためにも、「歳だから仕方ない」と放置せず、早めのチェックと受診を心がけましょう。

今では各地でアイフレイル健診が行われており、犬山市でも「アイフレイル眼科健診」が実施されていますので、対象年齢の方はチェックしてみてください。

—患者さんへのメッセージをお願いします—

焼田 目の病気の中には、気づいたときには視力の回復が難しくなっているものもあります。そのため、目の治療は見えなくなってからでは手遅れになることが少なくありません。皆さんには、目に異常を感じた際には早めに受診することの大切さを知っていただき

Dr. profile

やきた ゆたか

2015年に宮崎大学医学部を卒業後、名古屋大学医学部附属病院にて初期研修を修了。その後、同大学眼科に入局し、刈谷豊田総合病院、公立陶生病院などで研鑽を積む。2021年2月より総合犬山中央病院に着任。「丁寧にわかりやすい説明」を信条に、患者さん一人ひとりに寄り添いながら診療に従事し、地域医療の向上と患者さんの安心に貢献している。



たいです。「そのうち治るだろう」「もう少し様子を見よう」と自己判断せずに、まずは眼科で検査を受けましょう。視力低下や見え方の異常が原因であれば早期治療につながることで、異常が見つからなければ安心材料にもなります。また、両目で見ていると異常に気づきにくいいため、ときどき片目ずつ見え方を確認する習慣も大切です。現在さまざまなセルフチェックツールもありますので、日頃の目の健康管理にぜひ役立ててください。



健康管理センターからのお知らせ

★あなたの健康、私たちと一緒に守りませんか？

採血でできる膵臓がん検査 2027年1月～APOA2値上げ予定です。今がチャンス！

膵臓がんは症状が出にくい、早期発見が難しいがんのひとつです。従来の腫瘍マーカーCA19-9に加え、新しい腫瘍マーカー「アポリポ蛋白A2(APOA2)」を併用することで70%を超える感度でがんの発見に役立ちます。

膵臓がん腫瘍マーカーセット検査

CA19-9+アポリポ蛋白A2(APOA2) 5,800円(税込)

おすすめの併用検査

腹部エコー検査 5,500円(税込)

令和8年度定期予防接種について

肺炎球菌 定期接種:65歳

【対象年齢以外の方】自費での接種可能。

従来のワクチン「ニューモバックス」は5年で効果が低下しますので、再接種をご希望の方は2026年度より新しく主流となった結合型ワクチン(12,100円～15,000円)の自費接種をおすすめします。
※詳細はお問い合わせください。

带状疱疹

定期接種:65・70・75・80・85・90・95・100歳

★65歳以上の方、ご自身が接種対象かご確認ください。

【対象年齢以外の方】自費での接種可能。定期接種以外で50歳以上の方は自治体によって助成制度があります。※詳細はお問い合わせください。

インフルエンザ・コロナ他、各種予防接種ご予約承ります！

【ご予約・お問い合わせ】総合犬山中央病院 健康管理センター
直通(0568)-62-8246 代表(0568)-62-8111



免疫力の高い身体をつくる ～免疫を高める生活習慣～

私たちの体を健康に保つために欠かせない「免疫力」。しかし、ストレスや不規則な生活習慣でその力が低下しがちです。本記事では、免疫力を高めるための「食事」「睡眠・休養」「運動」の3つのポイントを分かりやすくご紹介し、毎日の生活に取り入れやすい方法を知り、健康な体づくりを始めてみましょう！

食 事 栄養をバランスよく食べる。腸内環境を整える。

人体の免疫細胞の約60～70%が集まる腸のメンテナンス

発酵食品の積極的な摂取→ヨーグルト・納豆・味噌・キムチ

食物繊維・オリゴ糖の補給→海藻類・きのこ類・玄米・野菜

タンパク質を毎食しっかり摂る→肉・魚・大豆製品(免疫細胞や抗体の材料)

睡眠・休養 しっかり寝て体を休め、自律神経を調整リラックス。

成人で一晩7～9時間を目安に、深く質の良い睡眠を確保する。

運 動 軽い運動を続ける。

激しすぎる運動は逆に免疫を落としますが、

軽く汗ばむ程度ウォーキングや筋トレは免疫細胞を活性化させます。



【参照元】厚生労働省:軽い運動について
https://kenet.mhlw.go.jp/tools/tools_physical/
【参考資料】厚生労働省:身体活動・運動の推進
<https://www.mhlw.go.jp/content/001195873.pdf>

細菌やウイルスなどによる感染症には「ワクチン接種」が有効になります。

ワクチンのご相談は「健康管理センター」までお問い合わせください。



地域連携支援センターからのお知らせ

地域みなさまの“在宅生活”を支えるパートナー

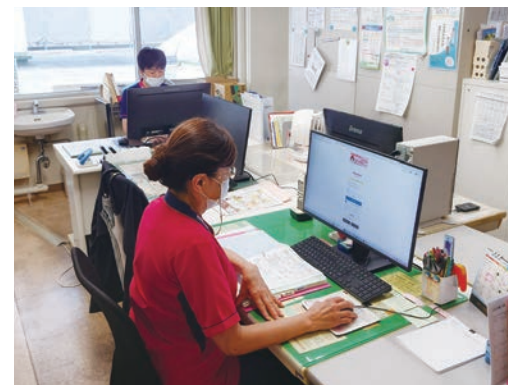
～ 犬山中央居宅介護支援事業所のご紹介 ～

居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)ってどんなところ？

居宅介護支援事業所(ケアマネジャー)は、介護が必要な方やそのご家族が安心して生活が続けられるよう、介護保険を活用した計画(ケアプラン)を作成する専門窓口です。「介護保険ってどうやって利用するの?」「退院後、自宅での生活がきちんと送れるか不安…」「一人での入浴や買い物などが難しくなってきた」など、介護に関するさまざまな悩みを抱える方々に寄り添い、生活の質を向上させるお手伝いをしています。

ケアマネジャーは、ご本人やご家族の「こう暮らしたい」という希望や思いをしっかりと聞き取り、それを基に最適な介護サービスを提案し、調整を行います。

介護に関する不安や疑問と一緒に解決し、ご本人が住み慣れた自宅や地域でできる限り快適に暮らせる環境を整えることを目指しています。ケアマネジャーの役割は単なるサービスの調整にとどまらず、ご本人やご家族の心に寄り添い、生活全体を支える重要な存在です。



当事業所の“ここが安心”3つのポイント

①総合病院併設ならではの迅速・円滑な医療連携

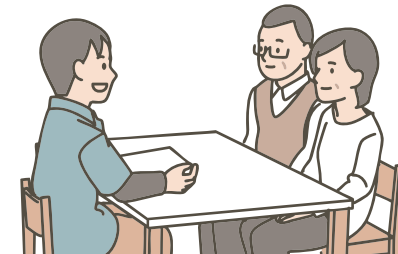
当事業所は総合犬山中央病院内に設置されており、医師や看護師、医療相談員(MSW)との情報共有がスムーズに行える環境が整っています。そのため、病気の治療や退院後の在宅復帰を目指す方、また医療依存度が高い方の在宅生活も安心してサポートできる体制が整っています。医療と介護の連携を迅速かつ円滑に実現します。

②2名体制だからこそできる「顔が見える親身で迅速なフットワーク」

現在、2名のスタッフが在籍しており、小規模だからこそ可能な、きめ細やかで親身な対応を大切にしています。お一人おひとりのお悩みにじっくりと耳を傾け、必要な支援を迅速かつ丁寧に提供。温かみのあるアットホームな雰囲気、地域に根差した信頼される事業所を目指しています。

③地域包括支援センターとのスムーズなバトンタッチ

当事業所は地域包括支援センター(犬山南地区高齢者あんしん相談センター)と同じ敷地内に併設されており、密接な連携を図っています。要支援から要介護へと状態が変化した場合でも、これまでの支援内容や生活状況をしっかりと共有し、スムーズに引き継ぎを行います。支援が途切れることなく継続できる環境を整え、利用者様やご家族が安心して生活を送れるようサポートします。



【ご相談・お問い合わせ】

◎事業所名: 犬山中央居宅介護支援事業所 総合犬山中央病院本館2階 地域連携支援センター内

◎受付時間: 月曜日～金曜日 8:30～17:00 土曜日 8:30～13:00(日祝・年末年始を除く)

◎電話番号: 0568-63-3707(直通)

◎費用はかかりません。まずはお気軽にご相談ください。

※担当件数に限りがある為、状況によって担当できない場合もあります。